

二〇一四総裁追悼国際武道錬成大会に寄せた

理事 中田 武太

六年に亘る国際部武道講習会は今回で一つの区切りとする講習会でありました。六月二十一日から二十八日に亘って開催された講習会にはイタリア、フランス、ベルギー、ドイツ、イギリス、アメリカ、ロシアの七カ国四十七名の受講者が集まり、柳流柔術、各流派居合道、空手道に真剣に講習の汗を流しました。濱田鉄心先生のイニシアティブで、講師の柳流柔術の川村八朗先生・竹田豊先生、無双直伝英信流居合兵法の藤井正巳先生、土佐伝承直伝英信流の一色克己先生、夢想神伝流の目黒信良先生、神伝円心流の森内一藏先生、虚心流居合剣法の山本楠城先生、日本剣道形の高田寛次先生、そして各門下の先生方には微に入り細に入り講習をして頂き、猛暑の最中にもかかわらず本当に有難く、その献身的な姿勢に深く敬意を表します。

私は二十八日の講習会の集大成の国際武道錬成大会に本部役員として列席して講評の役目を務めました。今回の講習会も各国チームは甲乙付け難い気迫に満ち溢れた素晴らしいデモンストレーションでありました。一週間という短時間で異武種の全く新しい技を正確に習得し披露した受講者と、指導された先生方に対して、心からの敬意と感謝の意を表したいと思います。それは日本武道の精神性と各技・動作の

理解がなければ到底表現できない演武で、まさに心技体一致の立派なデモンストレーションでありました。そして、今回は以前と違う感覚で拝見いたしました。それは受講者がこれまでの技量の壁を破った一段上の域に達したものを感じたからであります。気迫のこもった中にも、強く激しく素早く、時に静かに美しくゆつくりとした演武は無我・克己の域であると、見る者の心に響いてきたからであります。

この旧武徳殿には武道に勤しんだ先人の魂が宿っています。床の節々には先人の汗が染み込んでいます。この神聖な殿堂では礼節を重んじることは武道人として当然のことですが、今回の受講者も演武を待つ姿勢態度から、退場し演武を見学する姿勢態度に至るまで大変立派でした。国、言葉、文化、習慣など異なっても、それを越えて一つの目標に向かってこの一週間共に頑張ったことは、受講者ひとり一人が自己研鑽を成し遂げた者だけが得る事の出来る無形の財産であり、それぞれの国や地域や武徳会の発展のため、ひいては世界平和のために欠くことの出来ないものと信じております。